

第 5 回「こうとう未来ミーティング」実施結果

開催日：令和 6 年 8 月 9 日(金曜日)
会場：総合区民センター サブ・レクホール
参加人数：18 名(内、オンライン参加 2 名)
実施形態：参加者によるグループワーク(意見交換)



■主なご意見・ご提案等

【グループ 1】

- ・防災について、障害のある方への対応が問題提起としてあった。ハザードマップで得た知識や津波の危険がわかっても具体的に何をすればよいかわからない。だから「怖いよね」で終わってしまうのではないか。
- ・都市整備に関して、まちが綺麗になった一方でネズミが最近目撃されている。また、ハクビシンやウミネコも増えているので江東区として何かできることはないか。
- ・障害のある方も当事者として参加されていたが、例えば江東区の取り組みとして「インクルーシブセーリング」や「ボッチャ体験会」といった体験を共有できる取り組みがあるが、その情報がみんなに届いていない。
- ・情報発信について、SNS がある一方で、区報のようなアナログな情報源は、家に届くし、自分の興味のなかった情報も載っていて、見やすくまとまっており、意外と面白い。新しい手法を試すのもよいが、区報のようなものも残していくべきではないか。
- ・DX について、目的と手段を間違えると問題である。例えばマイナンバーカードが保険証になるとか、区のサービスがオンラインで申し込めるようになった時、高齢者にとっては、親切ではないことがある。
- ・江東区や、図書館のウェブサイトなど使っているが UI（ユーザーインターフェース）が直感的じゃない。DX を推進するのは素晴らしいが、DX によって問題を解決することに集中していただきたい。
- ・江東区避難所運営サポーターについて、29 歳以下の若い人を募集しているということだが、このグループでは誰も知らなかった。災害があったときに、若い人の力は絶対に必要。若い人や外国の方などみんなが繋がって、コミュニケーション取りながら災害対策ができれば良いと思う。ぜひ若いサポーターが増えてほしい。

【グループ 2】

- ・住民同士の個別の人間関係はあるが、横の繋がり、コミュニケーションがシステム化されておらず、それが防災、子育て、高齢者の問題など全てに関係しているのではないかと。行政がコミュニティづくりを手伝ってほしい。江東区に住みたい、住むとみんなが幸せになるというような、ソフト面の問題に落とし込めていない。そのため、全体として、何か足りないという感じがしているのではないかと。
- ・こどもを見るお年寄りによる有償ボランティアのようなシステムを作ると、若い親は助かる。こども食堂は開いている日数が少なく、これでこども食堂をやっていると言えるのか。
- ・区内には団地がいくつもあり、住んでいる高齢者の活躍が活躍することで、みんなが得になり、みんなが自分の力を発揮でき、みんなが喜ぶというシステムが必要で、それは行政が絡まないと難しい。また、他の区では学生による高齢者支援をすでにやっている。
- ・若い人が、何かお手伝いをすることによってマンションの家賃を安くする、という提案があった。
- ・ボランティアに参加すると、自分にもメリットがある、という発想が必要。高齢者は喜びと感じ、若い人は便利だと感じられ、繋がることのできるシステムが要る。
- ・いろいろなことを通してコミュニケーションのきっかけ作りをやってほしい。江東区は団地が多いので、高齢者のいる団地に、若い人には安い家賃にして手伝ってもらおう。
- ・こども食堂もそうだが、若い人と子どもと高齢者が交流できる。そういうソフト面を構築してもらえると良い。
- ・荒川沿いの水辺や大きな公園はなかなか東京にはない。ちょっとした山歩きをしているような感じを受けるところもある。仕事に疲れた人もリフレッシュできる癒しの場である。子どもや高齢者がラジオ体操を 365 日やっている。良い場所なのでもっとアピールしていただきたい。

【グループ 3】

- ・町会自治会の担い手がおらず、高齢化している。新しいマンションの住民は「任意だから」という理由で町会自治会に加入しない。新しい街でマンションの住民を巻き込むにはどうしたら良いか。
- ・有明地区では路上駐車が問題になっていて、先月ニュースやワイドショーでも取り上げられた。トラックからゴミが投棄され、街路樹内に家電や尿入りのペットボトルまで捨ててしまう。ドライバーにもそうせざるを得ない要因があって、構造的な問題もあるので、ドライバーにも配慮した解決策が導き出せると良い。
- ・江東区には運河、内部河川があり、そこで魚の大量死があった。集中豪雨によって水底が攪拌されてそれが原因らしいが、温暖化対策や環境問題に繋がる。有明の路上駐車では、東京都の条例でアイドリングストップしなければならないはずが、エンジンをかけっぱなしにしてしまう。これも温暖化対策に繋がる。

- ・運河、内部河川の活用について、場所によっては綺麗になって魚が跳ねているような環境もあり、水上交通やイベントを絡めた水辺利用を一緒に考えていきたい。
- ・防災面では、訪問介護の訪問先でいきなり震災があったらどこにどうしたらよいのかわからないので、もう少し周知されれば良い。垂直避難場所についても、知られていない。避難所は大きな文字で夜間でも見えるようにしたら良いのではないかな。また、女性職員も防災担当にしていきたい。
- ・DXに関してはプロセス自体を新しく見直していくことが必要である。今は部署によってバラバラな感じがある。さまざまな取り組みを連携させて、地域のまつりごとにしていくことが必要である。
- ・子育てしやすい区なのにそのポテンシャルが伝えきれてないのではないかな。学校ごとに特色を持たせると、流入する人が増えるのではないかな。

【グループ 4】

- ・区民と区長の対話がまだまだ足りていない。しっかり区民と区長と区がコミュニケーションを取れるとよい。「こうとう未来ミーティング」という素晴らしい取り組みをもっと増やしていただきたい。
- ・子育ての支援や介護の支援がいろいろある中で、若者世代に対する支援が手薄になっているイメージがある。若者世代が区政に関心を持ち、区政に参加できる、若者の声を届けられるようなシステムができると良い。
- ・介護について、知っていればいろいろなサービスがあるが、情報にたどり着くことが大変で1人で抱え込んでいる。一例として、高齢者の方のオムツは結構高いが、自分で買っていた長寿サポートセンターで資料を読むと、実はオムツを支給されるサービスがあることをずいぶん経ってから知った。そういうサービスにたどり着くまでが、当事者にとっては本当に大変である。自分は介護に精いっぱい、知るすべがないという現状がある。
- ・有償無償のボランティアで、介護の経験をした人が区と当事者の間に何らかの形で入ってサポート役になれるような仕組みができないか。橋渡しして、区民の力をもっと活用できるようなシステムがあると良いのではないかな。
- ・亀戸3丁目には木造の密集地域があり、火事があったときに周りに燃え広がってしまったことがあった。細い道が多いので、消防車も入って来られないという状況もある中で、木造密集地域の対策を早急にお願いしたい。
- ・江東区でみどりの活動をしているが、担当部署が土木部である。みどりの活動は、視点を変えると、子育てとか高齢者の居場所作りとか、あるいは環境教育などいろいろな要素がある。みどりの活動をもっとまちづくりに生かしてほしいので、土木部だけではなく他の部署とも連携していただきたい。